

登山 と 山岳スポーツ のちがい



スカイランニング大学 in 信州上田

2016年12月17日

日本山岳文化学会 = 田中文夫(講演)

PC操作=児玉熱子

自己紹介 田中文夫

1946年、神奈川県平塚市生れ、70歳、現在＝横浜市在住

18歳から登山を始め、丹沢からヒマラヤの岩壁登攀を**実践**

仕事(設計) と **体験(登山)** と **人生哲学(美)** の **統合**

< **登山の総合人間学** > < **登山の生態分類(学)** >

いずれも国立国会図書館蔵書

◆日本山岳文化学会 正会員 (岳人、山岳研究団体)

◆総合人間学会 正会員 (学者、学際的研究者団体)



夫・文隆長(左)と田中さきん

ヒマラヤへおしどり登山

女ばかりの巨隊が「さきん」さんをもつた二人の女性隊員アルブスへ、思ひ合わせた。平野度く男性(シエル)に頼むが、この高緯度帯に居るが、八八二五(シエル)の登山準備、外国では、夫婦のヒマラヤ登山。昨は紐高岳の風雪、各川上には雪頂を登っている。だが、隊にさきん(シエル)は、はなはだの登山が、日本隊、母一の急坂の樹立が、一歩一歩、マンナと峰、七、八九五(シエル)の登山は、

めざすマナスル山群の難壁

「二人で立ちたい頂上」

夫婦の西縁をめざす横山山岳会、英字さん(長尾夫人)といふ。妻さん(シエル)は、特別に参加を許されたのは、妻さん(シエル)が、あきまも本の実力であり、人々をよぶ、すでに同隊、八のクライマーの仲間入りは、四、三〇〇(シエル)で、マナスル山群は、高緯度帯から北、所、標高五千五百の大岩が、

『夫婦で本格的ヒマラヤ登山は日本で初めて』 紹介記事(朝日新聞全国版)1974年3月

2つの日本記録

昭和62年2月3日(火曜日) (6)

建築技術教育普及センター
が三十日発表した六十一年建築設備士試験結果は、受験者数九、一二人に対し合格者数は一、二六一人、合格率は一三・八%だった。また、建築設備士講習は、昨年十二月十三日までの受講者数七、六九六人のうち七、四三四人(九六・六%)が受講修了した。建築設備士の試験、講習ともに今回が第一回目で、八、六九五人の初の有資格者が誕生した。

東京会場の合格者は次のとおり。

県庁	氏名
山形	田中文夫
秋田	山本利昭
岩手	明山本利昭
宮城	明山本利昭
福島	明山本利昭
茨城	明山本利昭
栃木	明山本利昭
群馬	明山本利昭
埼玉	明山本利昭
千葉	明山本利昭
東京	明山本利昭
神奈川	明山本利昭
新潟	明山本利昭
富山	明山本利昭
石川	明山本利昭
福井	明山本利昭
岐阜	明山本利昭
愛知	明山本利昭
三重	明山本利昭
滋賀	明山本利昭
京都	明山本利昭
大阪	明山本利昭
兵庫	明山本利昭
奈良	明山本利昭
和歌山	明山本利昭
徳島	明山本利昭
香川	明山本利昭
愛媛	明山本利昭
高松	明山本利昭
岡山	明山本利昭
広島	明山本利昭
山口	明山本利昭
福岡	明山本利昭
佐賀	明山本利昭
熊本	明山本利昭
大分	明山本利昭
鹿児島	明山本利昭
沖縄	明山本利昭

昭和62年2月3日(火曜日) (6)

建	設	県庁	氏名
山形	田中文夫		
秋田	山本利昭		
岩手	明山本利昭		
宮城	明山本利昭		
福島	明山本利昭		
茨城	明山本利昭		
栃木	明山本利昭		
群馬	明山本利昭		
埼玉	明山本利昭		
千葉	明山本利昭		
東京	明山本利昭		
神奈川	明山本利昭		
新潟	明山本利昭		
富山	明山本利昭		
石川	明山本利昭		
福井	明山本利昭		
岐阜	明山本利昭		
愛知	明山本利昭		
三重	明山本利昭		
滋賀	明山本利昭		
京都	明山本利昭		
大阪	明山本利昭		
兵庫	明山本利昭		
奈良	明山本利昭		
和歌山	明山本利昭		
徳島	明山本利昭		
香川	明山本利昭		
愛媛	明山本利昭		
高松	明山本利昭		
岡山	明山本利昭		
広島	明山本利昭		
山口	明山本利昭		
福岡	明山本利昭		
佐賀	明山本利昭		
熊本	明山本利昭		
大分	明山本利昭		
鹿児島	明山本利昭		
沖縄	明山本利昭		

61年
建築設備士資格者
東京会場

税抜き予定価格は困難

建築設備士(一次〜三次試験)

創設第1回国家試験 第1号合格

昭和61年試験

受験資格(大卒経験8年以上)

… 職業(プロフェッション) = 設計(電気設備) …

45年間 < 電気設備設計 > に従事

スペシャリスト(部分専門家)ではなく
プロフェッショナル(全体と部分を統合)を目指した

電気設備設計は → 常に全体機能を考えながら、部分詳細設計を繰り返す

(株)システム・デザイン設立し21年、2014年9月で会社を閉鎖し、引退

国家資格(建築設備士、シニア認証17番目)

< 作品の一例 >

- ◆ 神奈川県立歴史博物館 (神奈川県)
- ◆ かながわアートホール (神奈川県:保土ヶ谷公園)
- ◆ 横浜港シンボルタワー (横浜市:横浜港D突堤)
- ◆ 三ツ沢公園球技場 (Jリーグ開始に合わせて整備)
- ◆ 金沢シーサイドライン車輛基地 (第3セクター)
- ◆ 成田空港第2滑走路レーダー基地 (国土交通省)

登山の略歴

18歳で丹沢の沢登から始まり、国内主要岩壁を四季にわたって登攀する

冬季 = 前穂高岳屏風岩中央カンテ、谷川岳一ノ倉沢烏帽子奥壁中央カンテ

|| アルピニズム ||

- ◆ 1968年正月、韓国、ウルサンバイ初登攀（日韓親善東京登山隊ルート）
- ◆ 1974年春季、横浜山岳協会 P29南西壁登山隊（申請上の隊長）
- ◆ 1978年秋季、ツラギの会 P29南西壁登山隊（隊長） ← 死亡事故

◆ 1981年夏季、子育て前に夫婦でアイガー、マッターホルン、他、登攀

|| 文化登山 ||

- ◆ 1983年冬季、ツラギの会 コンデ南稜登山隊（隊長）
- ◆ アルパインツアーのエベレスト、アンナプルナ・トレッキング（コンダクター）

現在 → 山岳文化研究者、売れない作家・売らない作家



↑
1981年8月
子育て前の
スイス・アルプス
アイガー山頂

2000年3月

家族で

アンナプルナ・トレッキング

↓
現在 → 子は独立し、孫4人



【 著 作 】

- ◆ **青春のヒマラヤに学ぶ** (2001年、文芸社)
- ◆ **頂のかなたに** (2003年、日本文学館)

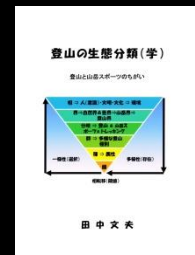
… 2014年9月 = 会社閉鎖、研究・著作活動に入る …

- **若き日の山々** (2014年) HP公開
- **老いの道標** (2014年) HP公開
- **登山の総合人間学** (2015年)

HP公開、国立国会図書館蔵書

- **登山の生態分類(学)** (2016年)

HP公開、国立国会図書館蔵書



山をに対する人間的要素

1) ホモ・サピエンス = 賢い(考える)人間 (考える人)

- ◆ 人間は考える葦である・・・フランスの思想家パスカルの言葉 (パンセー)
- ◆ 幸福感、充足感、充実感 ~ 価値観

2) ホモ・ファールベル = 物を作る人間 (文明人)

- ◆ 道具を作り、生活を豊かにさせる (衣・食・住 → 都市生活) = 日常
- ◆ 山岳施設整備 → 非日常的环境(自然)を日常性の中に組み込む

3) ホモ・ルーデンス = 遊戯(遊ぶ)人間 (文化人)

- ◆ オランダの歴史家・・・ヨハン・ホイジンガ、1938年発表 (1971和訳版)
- ◆ 登山、山岳スポーツ、ハイキング ~ 健康運動、運動競技、知的遊び

4) ホモ・エコノミクス = 経済合理個人主義的人間 (経済人)

- ◆ 経済の本質 = 経世済民 → 資本独占(私利私欲) → トランプ現象
経世済民 = 中国のことわざ → 世を経(おさめ)、民を済(すくう)

登山とスポーツの文化的役割

登山 → 戦争欲求の抑止力

- ・ 自らの死に立ち向かうアルピニズムの内向性は他者への攻撃(戦争)に向かわず → 自己統合(神性)に向かう

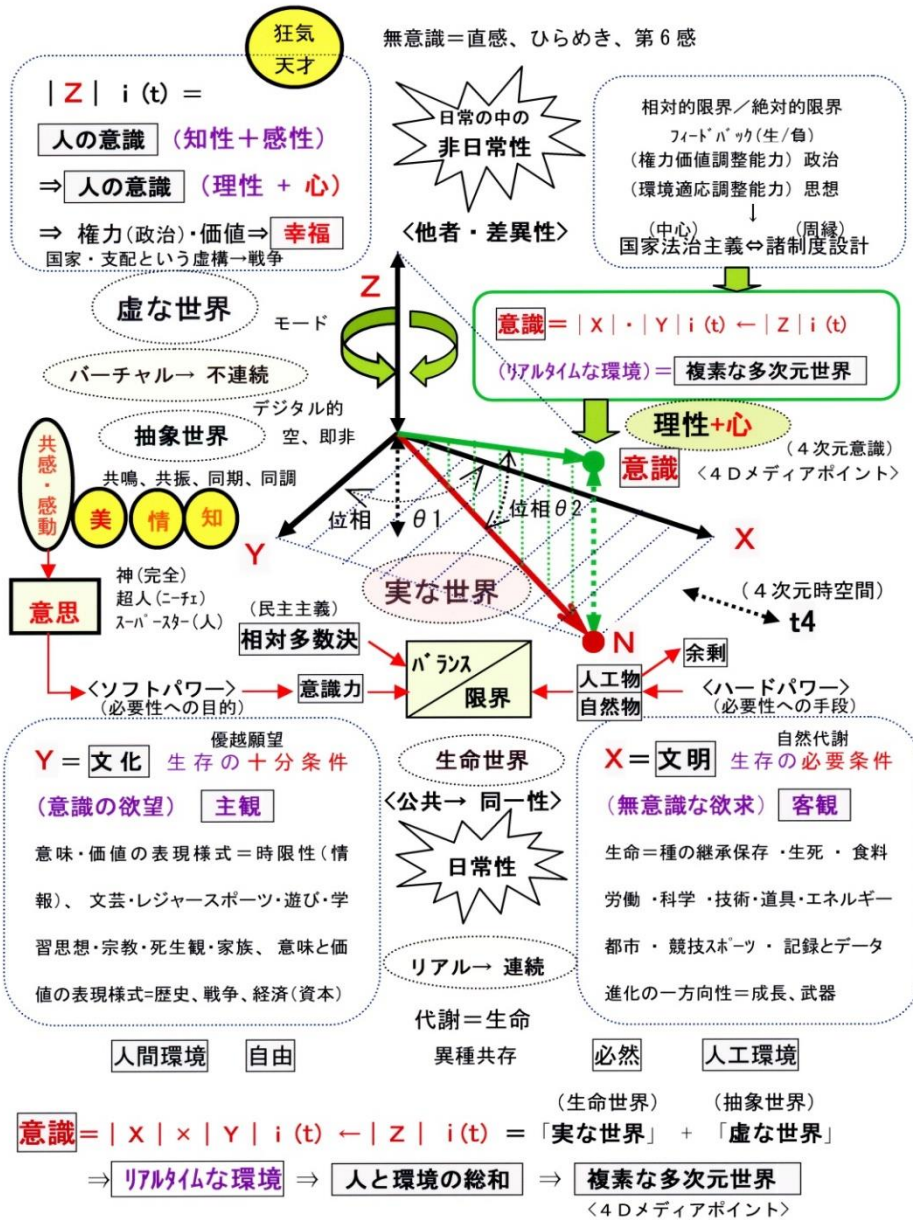
スポーツ → 戦争欲求のガス抜き

- ・ スポーツのフェアプレイ精神は闘争(戦争)に歯止めをかけ、全力を尽くす身体はリビドー(性的衝動、本能のエネルギー)を和らげる

※ 男性度が高い → 攻撃性が強い → 文明的社会(勝者生存)

◎ 男女の相補的結合 = 文明と文化の相補的補完 → 自立社会

※ 女性度が高い → 受容性が高い → 文化的社会(多様共存)



通信脳

↓ 複素的世界観

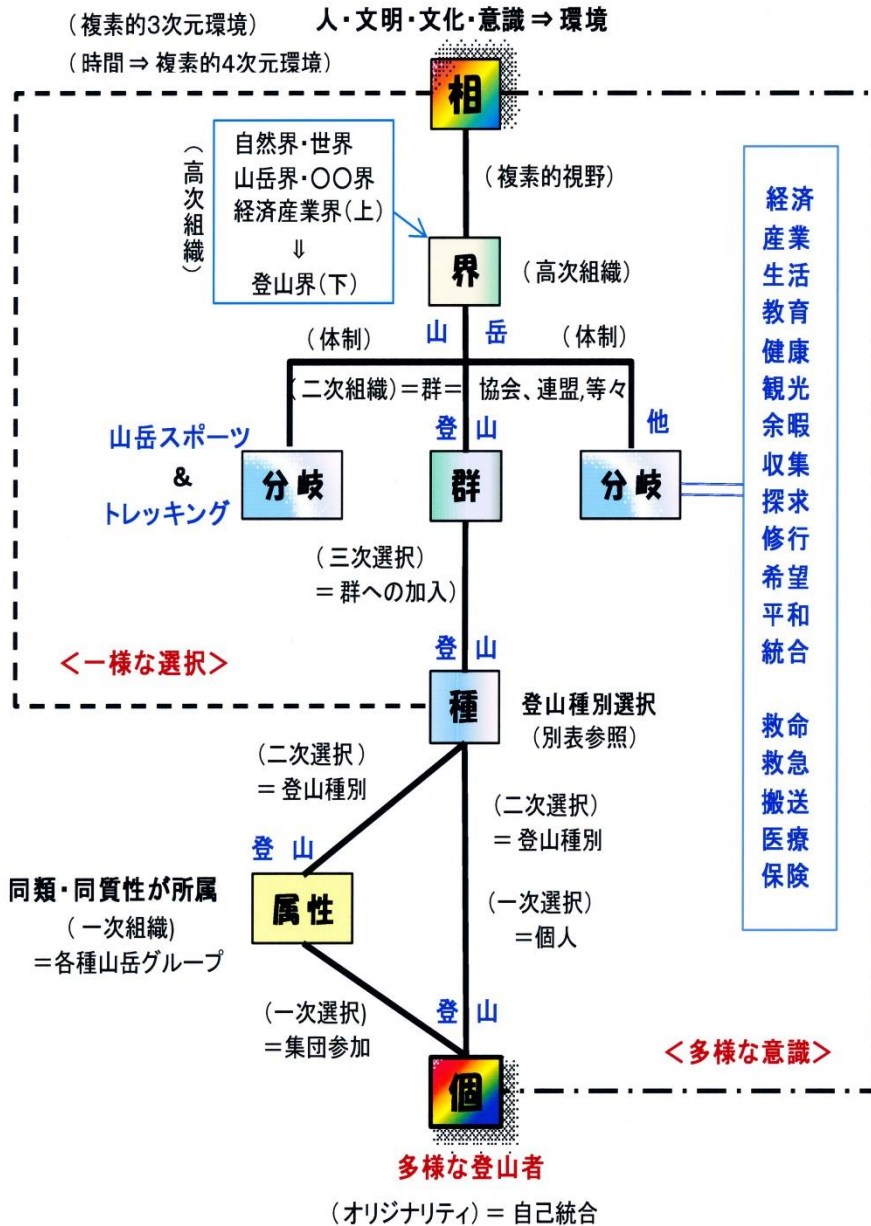
↓ 人工知能以降の世界観

登山の総合人間学

発行 = 2015年12月
 A5版 266頁
 非売品
 ホームページ公開
 国立国会図書館保存



生態分類(学)の構造



登山の生態分類(学)

発行 = 2016年8月
A5版 133頁
非売品
ホームページ公開
国立国会図書館保存

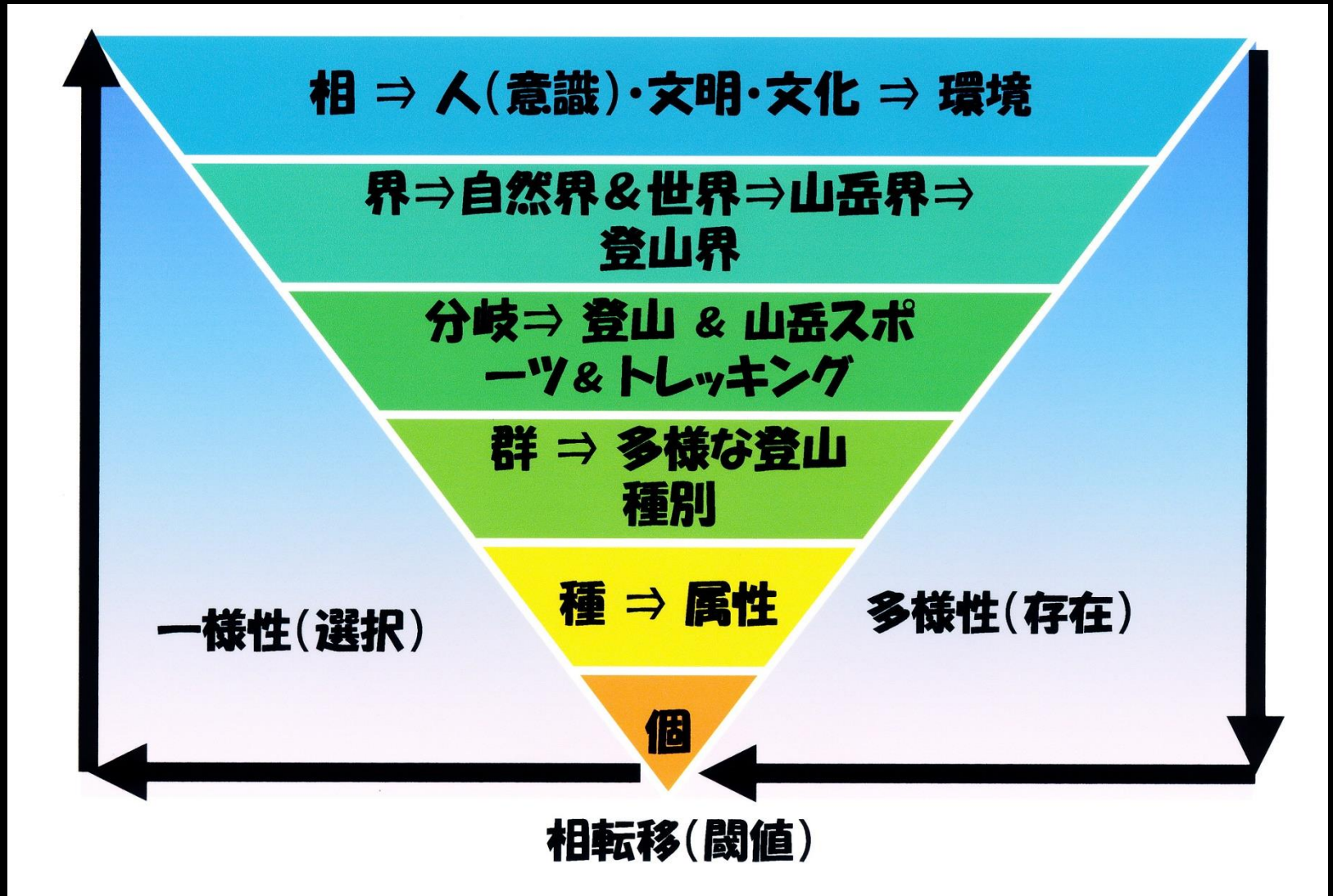
登山の生態分類(学)

登山と山岳スポーツのちがいがい



田中 文夫

複素的思考法からの(◆◆)界



登山の生態分類(学)

登山と山岳スポーツを分岐する

構成と構造を「分類表」で表現

登山

- ◆ 自然の中で途中リタイアが困難
- ◆ 行動の中に「死の意識」が潜在
- ◆ クライシス・マネジメントを要する

スポーツ

- ◆ 「安全確保」規則の下での競技
- ◆ 途中リタイア、反復可能なゲーム性
- ◆ リスク・マネジメントを適用

登山の分類 (13類型)

登山	自己統合	アルパイン登山	A-0	超人形	メスナー、山野井	
			A-1	単独形	単独登山	
			A-2	複数形	パーティ登山	
			A-3	企画事業形	選抜対価登山	
			A-4	企画公募形	応募有償登山	
			A-5	交流形	任意無償登山	
	趣味の展開	レコード登山	B-1	記録更新形	〇〇記録	
		メモリアル登山	B-2	記念顕彰形	〇〇記念登山	
		コレクション登山	B-3	収集蓄積形	7大陸、百名山等	
		ヘルス登山	B-4	健康希求形	自主健康登山	
		ツーリズム登山	B-5	観光引率形	企画形観光登山	
		ファッション登山	B-6	社会風潮形	流行登山	
		ワンダーフォーゲル	C-1	鑑賞自立形	山嶺巡行登山	

山岳スポーツの分類

(11類型)

山岳スポーツ	クライミング	ボルダリング	D-1	ロープなし	高さ 5m 以内	国体
		トップロープ・クライミング	D-2	トップロープ形	12m 以上のハング	
		リード・クライミング	D-3	スポーツ形	12m 以上のハング	国体
			D-4	トラッド形	ナチュラル・プロテクション	
	ランニング	トレイルランニング	E-1	山野を走る	自然の路面、高低	
		マウンテンランニング	E-2		登下降	
		スカイ・ランニング	E-3		標高 2,000m 以上	
		ウルトラランニング	E-4		42.195km 以上	
		ポッカランニング(駅伝)	E-5		荷を背負う	
	歩行	ウォーキング	F-1	山野を歩く	〇〇ウォーキング	
		ハイキング	F-2	山野を散策	〇〇ハイキング	

トレッキングの分類 (2類型)

トレッキ ング	アルパイン・トレッキング	C-2	鑑賞自立形	自立形山岳巡行	
	ツーリズム・トレッキング	C-3	観光引率形	企画形山岳巡行	

クライシス・マネジメント

と

リスク・マネジメント

クライシス・マネジメント

戦争による国家崩壊への対処から研究が始ったもの

- ◎ トップリーダーの主たる役割(マネジメント)
- ◎ ある状態が崩壊し、元に戻らない事象への対処
 - ・ 生 → 死
(生=個人、地域社会、国家、民族、……生物)
 - ・ 原子力発電 → 炉心のメルトダウン
(原子、分子、個体 …… 物質)
 - ・ 自然事象 (そこに人がいる場合は自然災害)
- ◎ 対処法
 - ・ 崩壊をくい止めるあらゆる手段を即時に尽す

リスク・マネジメント

日常生活における一般的なマネジメント

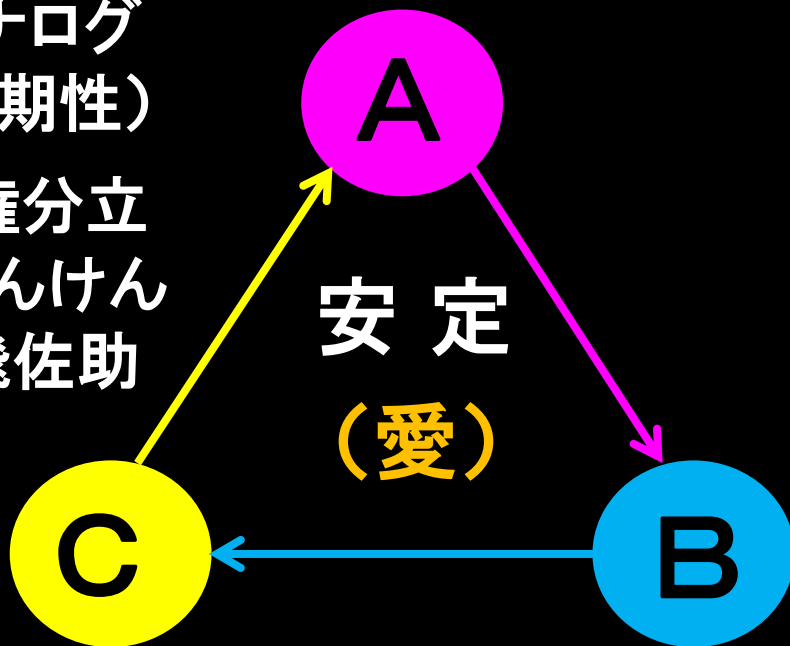
- ◎ セカンドリーダー以下の役割(マネジメント)
 - ◎ ある状態が変容・変形しても、復元・再利用可能な場合への対処
 - ・ 一般社会生活のほとんどの部分
 - ◎ 対処法
 - ・ 利害得失を精査し、バランスシートを作成する
 - ・ 優先順位を判断し、適正化へ収斂させる
- つまり ➡ 構想～計画～設計～実施～保全

登山

(感受性・思索・行動)

統合→(愛)

アナログ
(周期性)
三権分立
じゃんけん
猿飛佐助



アルピニズム

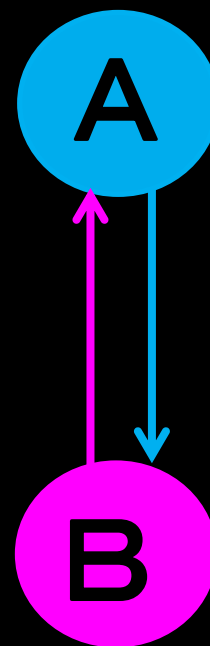
スポーツ

(能力競技)

絶対者→(神)

デジタル
(散逸性)

勝敗
序列
階層



かもめのジョナサン

星の王子さま

リスク
マネジメント

クライシス
マネジメント

クライシス・マネジメント リスク・マネジメント の直近実例

2016.11.03 丹沢・水無川・作治小屋

中村純二先生 93歳(東大名誉教授、第3次南極越冬隊員)倒れる

① 【前夜の団欒会】



② 【前夜の団欒会】



③ 【早朝の餅つき】



④ 【つきたてのからみ餅を食べる】



⑤ 【つきたて餅を食べる中村 先生ご夫妻】



⑥ 【食後に中村 先生意識を失う】



⑦ 【即時に救急車要請 →
約40分後到着】



⑧ 【救急車内で検査 →
心電図、血圧、脈拍、呼吸数、等】



⑨ 【救急隊長と交渉 → 異常なしを確認
本人意思の判断で対応を図ることを説得】



⑩ 【意識・判断は正常に戻り、救急隊に
念書を残し、講演会は実施とする】



南極越冬でタロ、ジロらと極地探査をされていた中村先生



2014年の『ほうおう座流星群』



1956年12月5日、インド洋航行中に巨大流星群発見



1957年1月24日、海海岸に接岸



E層の黄緑色カーテン状射線構造



E層の黄緑色とF層の赤が重なり、E層のオーロラは白く撮影される



昭和基地の通信塔背後に現れた真つ赤なオーロラ



2014年12月1日、スペイン、ラ・パルマ島で58年振り2度目の観測（佐藤、渡部、中村夫妻）



さっそく皇帝ペンギンがお出迎え



第3次越冬隊の昭和基地

ほうおう座流星群観測余話 と 第1次～第3次南極物語 中村 純二（東京大学名誉教授）

2015年4月11日 秦野戸川公園パークセンター講演ダイジェスト

中村 純二



講演会風景

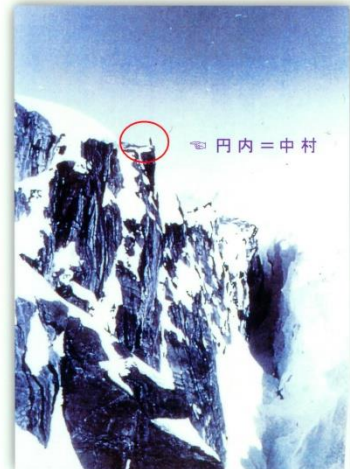
2015年11月4日
標題の冊子発行
国立国会図書館蔵書



白瀬水河上流の奥氷河岳(270m)
(左=ジロ、中村、タロ=右)



田英夫
中村純二
西堀栄三郎



円内=中村

白瀬水河入口、インステクレバーネ峰(470m)に立つ



【幻の第2次越冬隊】 1958年2月14日、15頭のカラフト犬を鎖でつないだまま宗谷に戻る



1959年1月15日 無人の昭和基地で1年間を生き抜いたタロ(奥)とジロ(手前)

1959年5月7～13日、片道40km人曳り探査(中村、平山、川口)



犬ぞり探査(北村隊員とジロ、シロ、タロ=先頭)

クライシス・マネジメント

意識喪失 → 死の可能性 → 救急車要請
救急隊検査（心電図、血圧、脈拍、呼吸数）

リスク・マネジメント

事実を確認 → 緊急性なし → 最適判断

- ① 救急隊の要望 → 病院へ搬送し再確認
- ② 私の意見 → 本人意思の尊重
(予定通り講演会実施)

※ 講演会聴講者に医師、看護師がいる(学会有志)

※ 万一の時は再度救急出動します(救急隊)

ネパール・ヒマラヤ P29南西壁登山



アンナプルナ山群

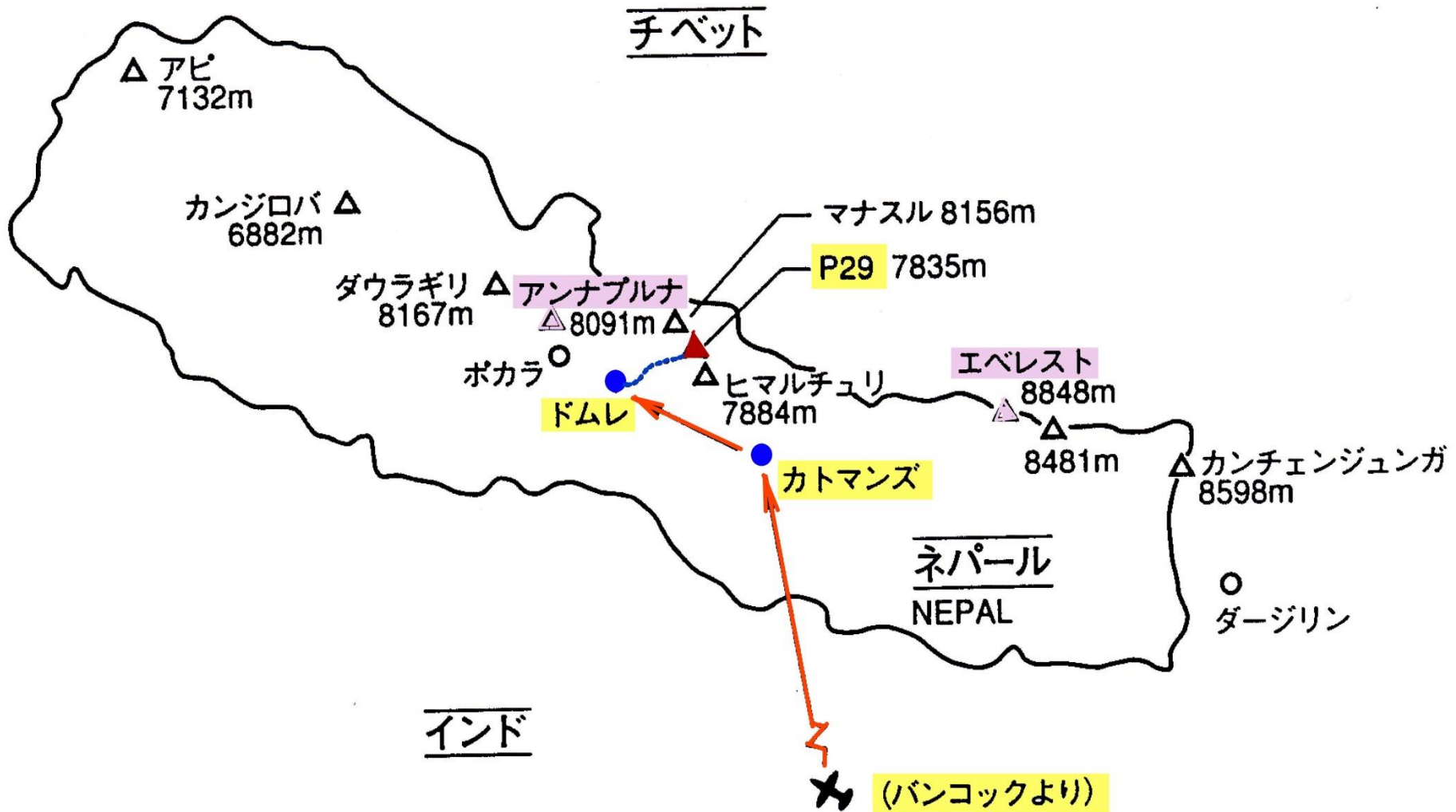
BC (裏側)

ツラギ氷河

ツラギの会P29南西壁登山隊 1978

隊長：田中文夫

ネパール・ヒマラヤ



マナスル3山は日本隊が初登頂

マナスル (8163m) **P29** (7871m) **ヒマルチュリ** (7893m)

日本山岳会

大阪大学

慶応大学

1956年

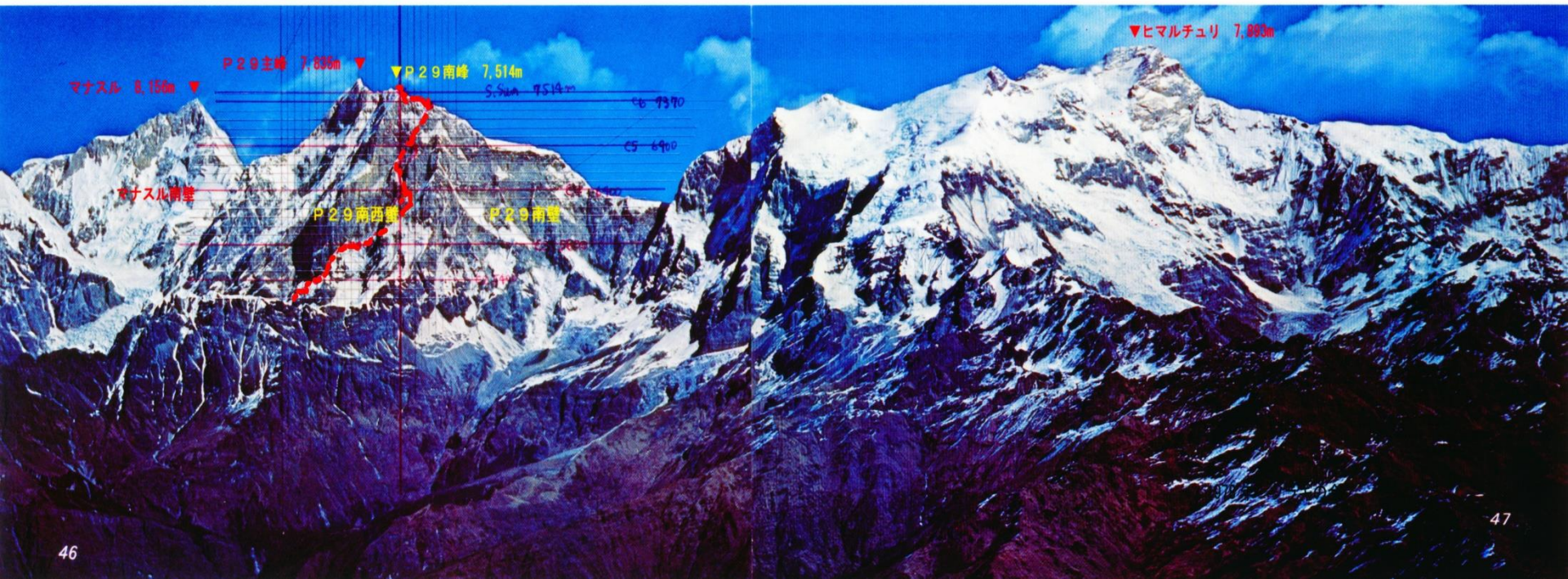
1970年

1960年

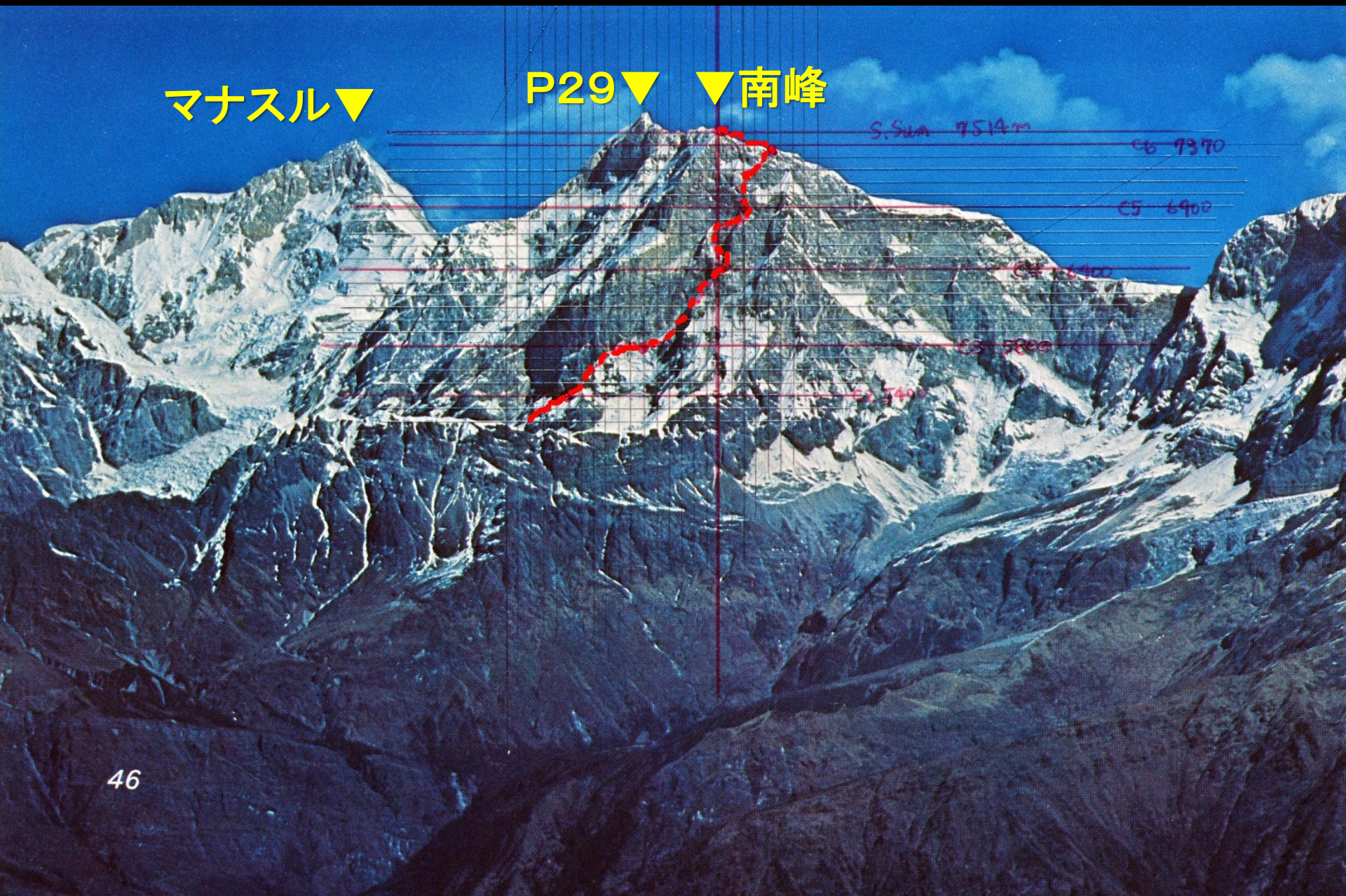
以降、山の高さは1978年当時の古いデータのままとします。

<一目盛=100m>

『空から見たヒマラヤ』 : NHK取材班・著 : 1978年6月1日 発行 : 日本放送協会



マナスル と P29 (クライマー好み)

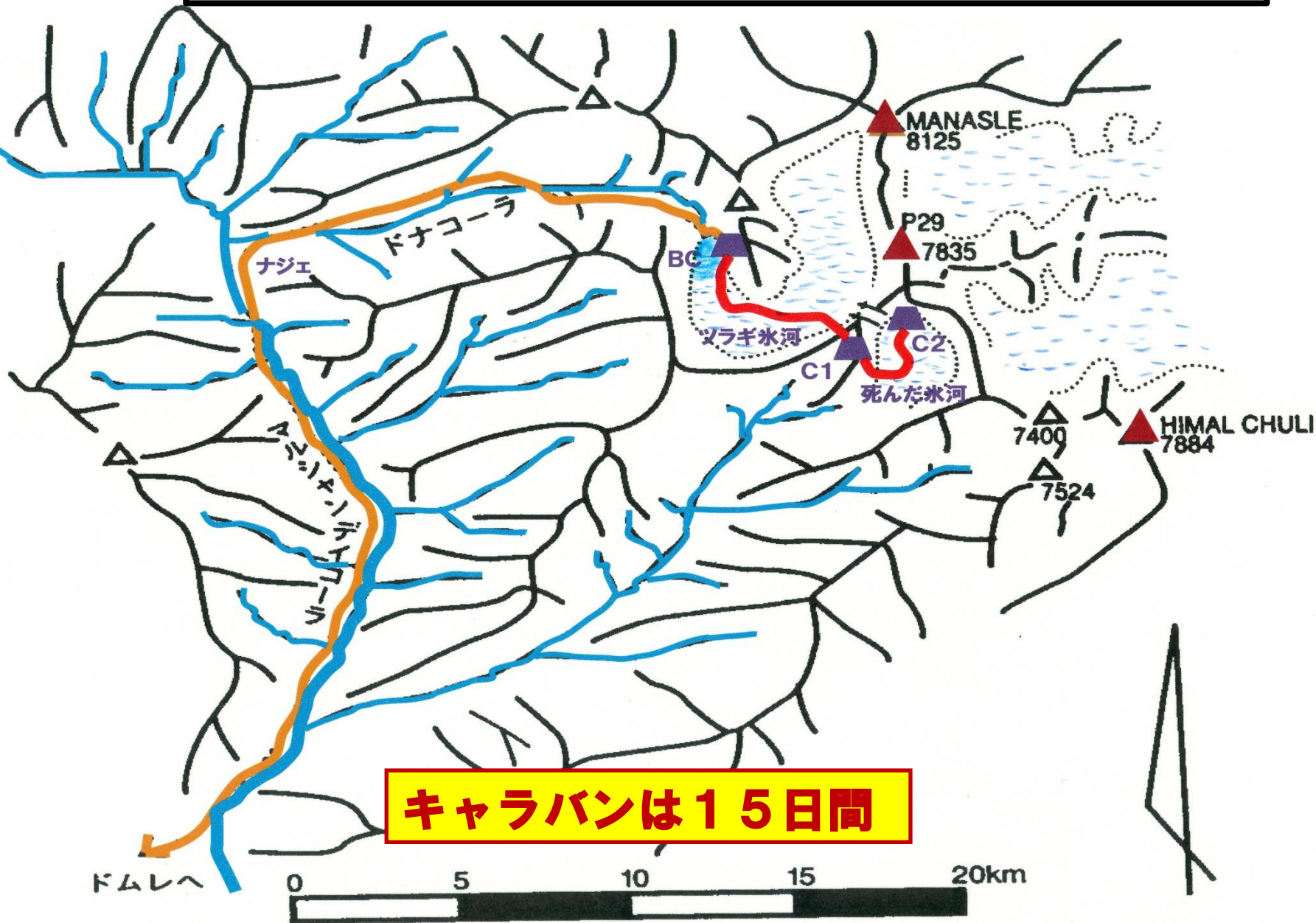


マナスル▼

P29▼ ▼南峰

S. Sum 7514m
66 7370
65 6900
64 6400
63 5800
62 5400

マナスル3山 と キャラバンルート 概念図



キャラバンは15日間

ドムレヘ

0 5 10 15 20km

1. 隊の名称

邦名 P29南西壁登山隊

英名 P29 South West Wall Expedition, 1978

2. 主催

ツラギの会 (横浜山岳協会加盟)

3. 後援

横浜山岳協会 (10万円の寄付金)

神奈川新聞社 (名義後援)

TVKテレビ (名義後援)

4. 目的

P29南西壁より南峰 (7,514 m) の初登頂

5. 隊の構成

隊長 1名

田中文夫 32歳

副隊長 1名

白石巳之助 37歳

隊員 8名

牛沢守 31歳 (死亡)

御園生久義 29歳

登攀リーダー

遠藤ケイ子 30歳 (看護師)

栗林富子 30歳

万実久次 29歳 (死亡)

登攀メンバー

柏森一夫 26歳

津山孝義 25歳

高橋美文 25歳 (死亡)

上村英子 31歳

カトマンス涉外

留守本部 (東京)

富田栄吉、和田好弘、村松徳夫

6. リエゾンオフィサー 1名

Gunjaman RAI 34歳 (警察出向)

7. シェルパメンバー (高所) = 4名

、コック = 1名、キッチンボーイ = 1名

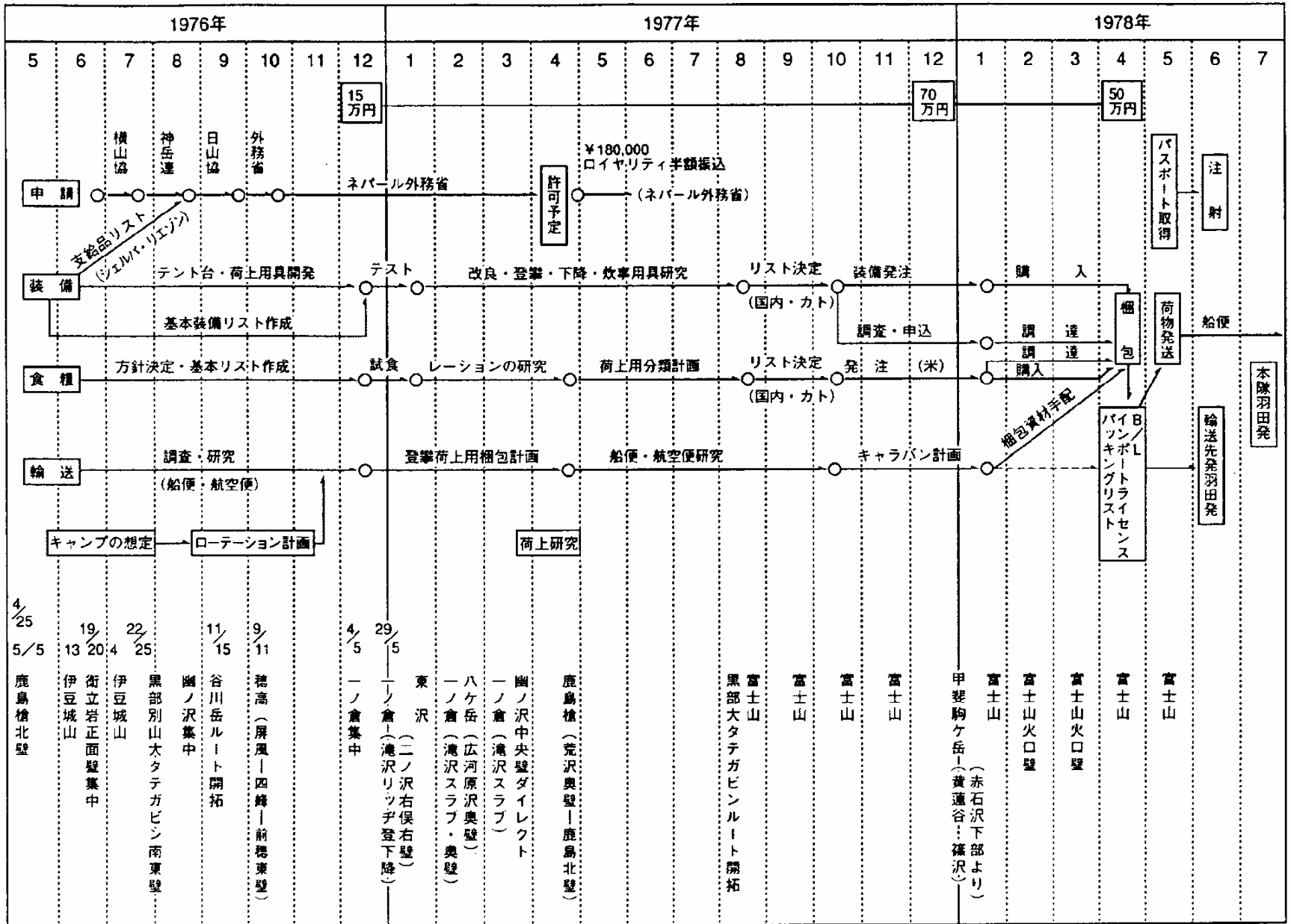
9. ローカルポーター = 2名、BCまでのポーター = 165名

隊員自己負担金 = 120万円 / 人 (当時大卒初年度の平均年収相当)

(国内 準備パート図)

P29 Exp. 準備スケジュール

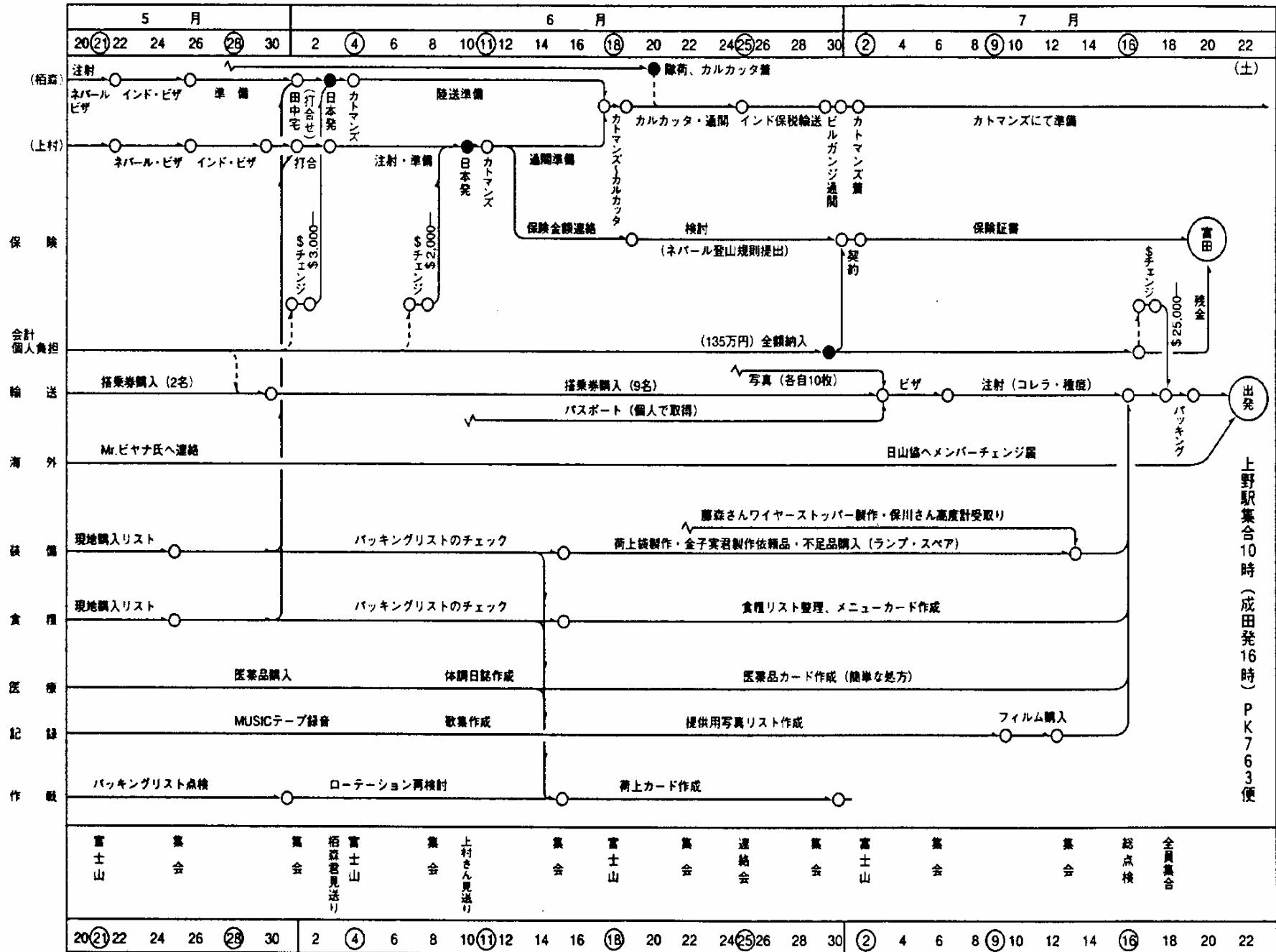
ツラギの会



【国外 準備パート図】

P29 EXP. 1978 SCHEDULE

ツラギの会

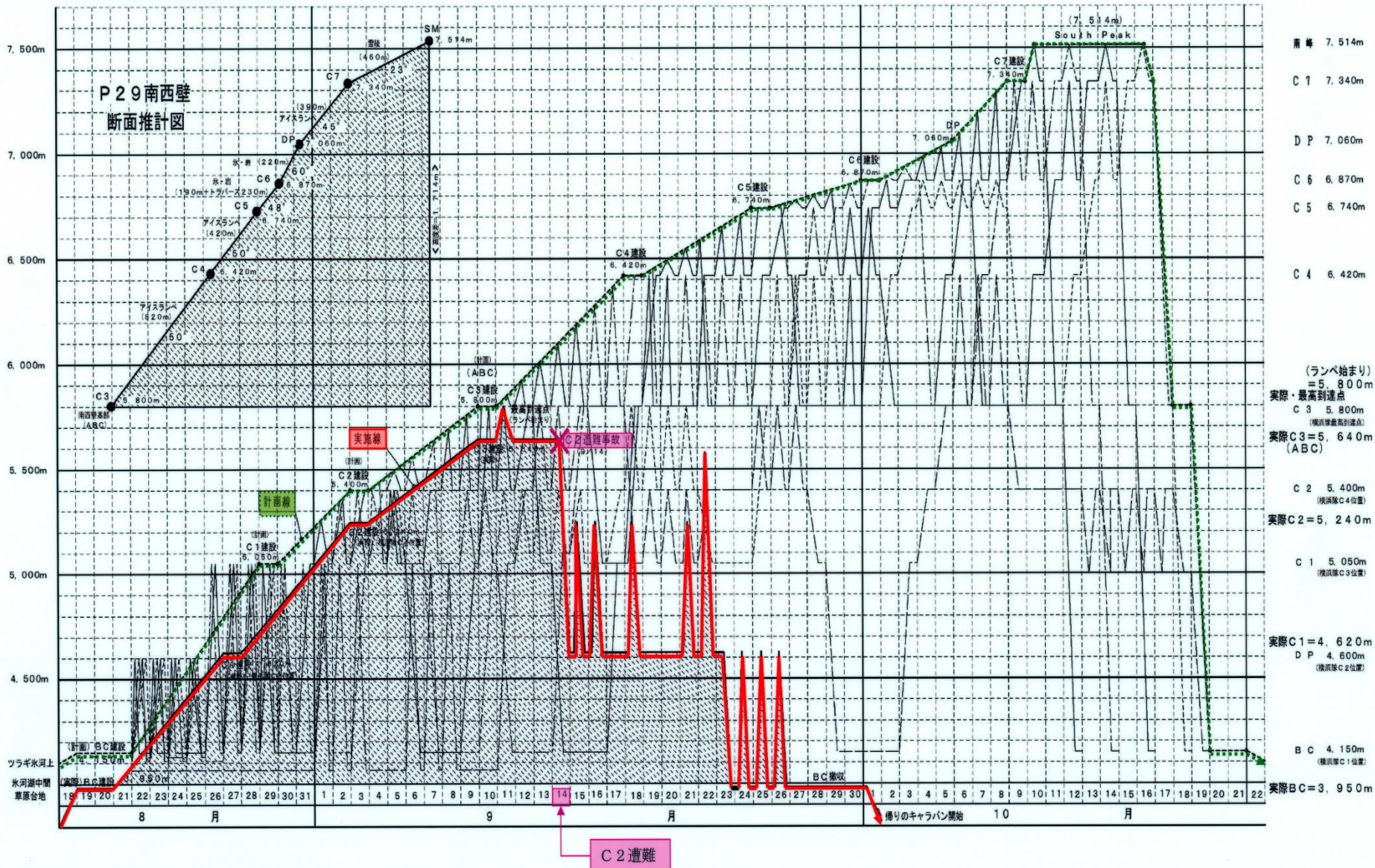


上野駅集合10時 (成田発16時) PK763便

登攀ローテーション計画 と 実際の進捗 (赤線)

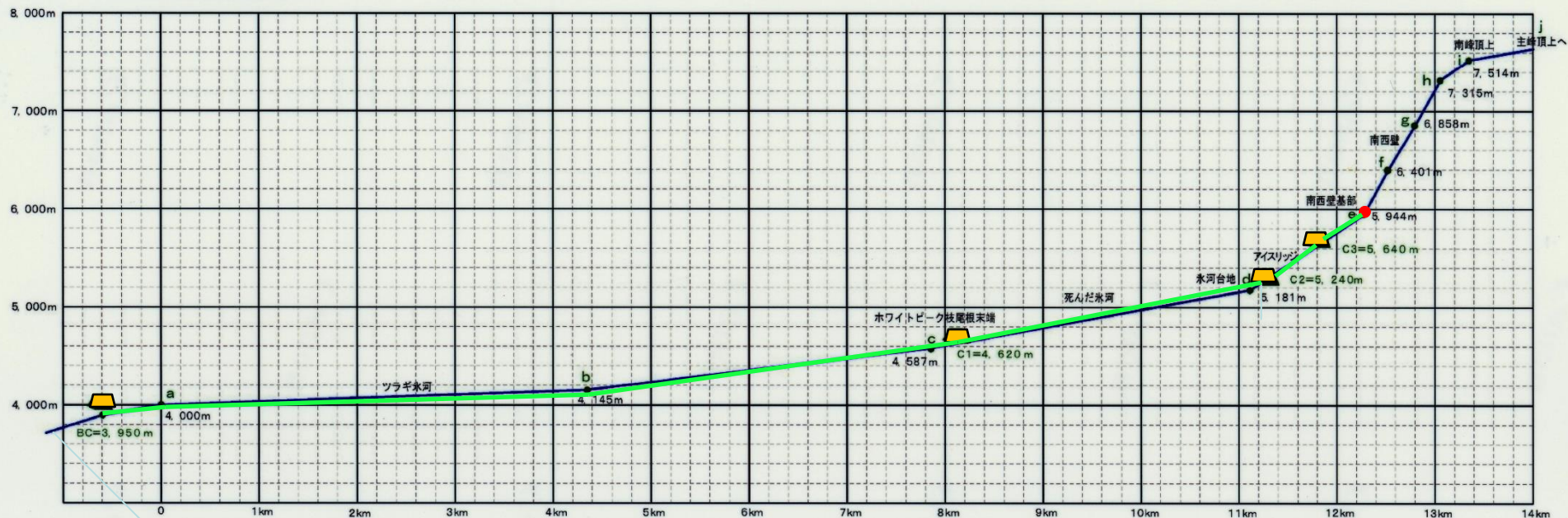
P29南西壁登攀計画と実際

計画線と実施線との高度のずれは、高度計の表示値の相違による。C3建設までは、計画とほとんど同じであった。



P29南西壁断面図 と 登攀キャンプ計画

P29南西壁登攀断面図



地図計測スケール: one inch to one mile

高度表			
位置	feet	m	キャンプ
a	13,120	4,000	BC
b	13,600	4,145	-
c	15,050	4,587	C1
d	17,000	5,181	C2
e	19,500	5,944	C3
f	21,000	6,401	C4
g	22,500	6,858	C5
h	24,000	7,315	C6
i	24,652	7,514	南峰頂上
j	25,706	7,835	主峰頂上

区間	水平距離		高度差		傾斜 度分	登高距離 m	キャンプ位置 (計画)
	地図計測長さ cm	m	feet	m			
a-b	6.5	4.358	480	145	1° 55'	4,394	BC →
b-c	5.2	3.487	1,450	442	7° 15'	3,536	→ C1
c-d	5.0	3.353	1,950	594	10° 5'	3,394	C1 → C2
d-e	1.6	1.073	2,500	763	35° 25'	1,318	C2 → C3
e-f	0.4	0.268	1,500	457	59° 40'	529	C3 → (C4)
f-g	0.4	0.268	1,500	457	59° 40'	529	(C4) → (C5)
g-h	0.4	0.268	1,500	457	59° 40'	529	(C5) → (C6)
h-i	0.4	0.268	652	199	36° 35'	334	(C6) → 南峰頂上
i-j	2.6	1.743	1,054	321	10° 30'	1,762	南峰頂上 → 主峰頂上
TOTAL	南峰頂上	13.343		3,514		14,563	to south summit
	主峰頂上	15.086		3,835		16,325	to main summit

事前説明会

2017年6月25日 (新宿)

厳しい岩壁であり、成功は50%と説明

参加しない(知らない)人ほど、
後で文句を言う!

※ 共産党機関紙「赤旗」の記者が取材

(ポラロイドカメラ写真)



飛行機から見えるヒマラヤ (雲のよう)

〈ヒマラヤの山並 ↓〉

〈雲 ↑〉

〈飛行機〉

カトマンズ・トリブバン空港

B-727 イエティ号



カトマンズ市街

人・車・排ガス・埃の街



ニューロード



アッサンバザール

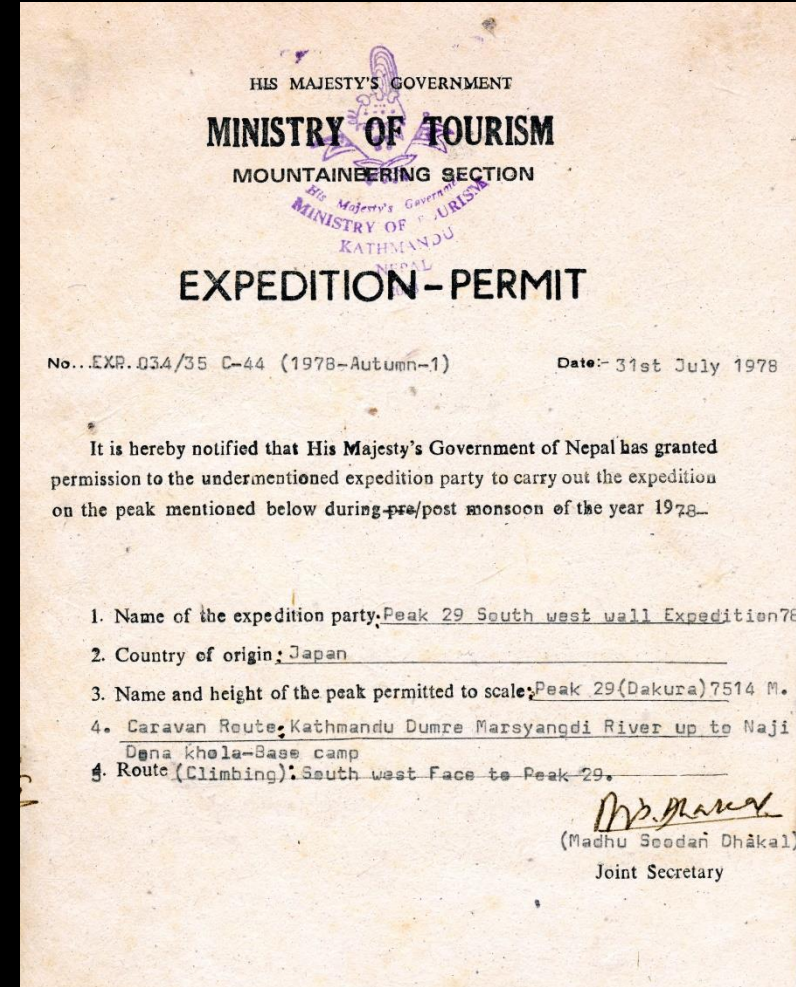
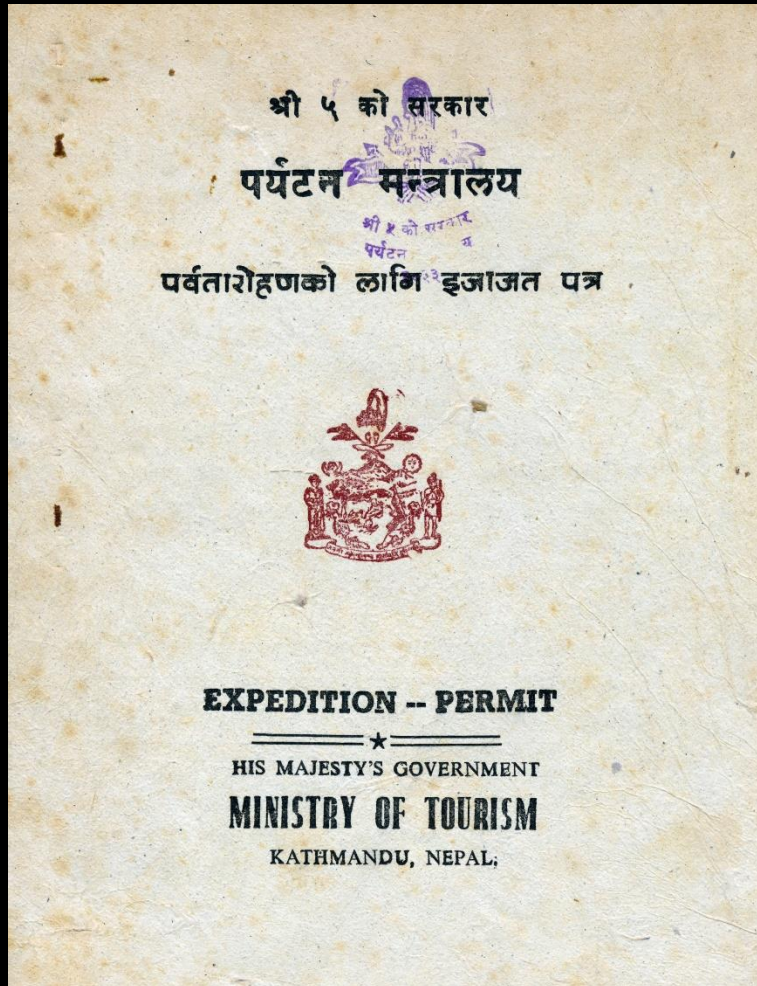
船便(木枠組)で送った登山隊荷物(5t) 横浜→(船)→カルカッタ→(インド国内陸送)→ネパール



登山料(30万円)を全額支払い

登山許可証 (パーミッション) を取得

山名 = Peak 29 (Dakura) 7514M



シェルパ族の安全祈願

<カタ> かけてもらう隊員達



キャラバン出発前の荷物渡し

一人ひとり名簿に登録、タグとタバコ3本をわたす



若い夫婦のポーター

胸にカートンボックスNOのタグ



キャラバン開始(ポーター)

一日約10Km × 15日間 = 150kmの道のり



バッチィ(茶店)の中

ミルクティー(紅茶)一杯2ルピー(約34円)はゲストプライス



子供は学校へ行く前に一仕事



川を渡るポーターの列



渡渉する女性ポーター



竹やぶがある山間の村人 (チェットリ族?)



異なった部族の母子 (マガール族?)



35Kg を運ぶポーター達

プラスチックダンボールは破れず雨にも強く燃料にもなる



スイスの援助で出来た
吊橋を渡る

(橋のたもとには大麻草)



キャラバン中に見えるマナスル3山

▼マナスル ▼P29 ▼ヒマルチュリ

(1974年横浜山岳協会隊の写真)



ポーターへの賃金支払い

一日18ルピー(306円)

支払っているそばからナイケ(世話役)はピンハネ



チャパティをつくるコック

三点に石を置けば釜戸ができる



キャラバン中の食事風景

日本から持参するカレールーは最高な贅沢！



山間の村の姉妹

ピュアーな澄んだ瞳が印象的！



キャラバン中、休憩のひと時 (ナジェの部落) ポーターとの交流も楽しい



丸太で梯子を組み岩場を通過

ポーターの荷物はロープで吊り上げ

(砂糖2箱を谷へ落す)



お花畑にベースキャンプ設営 (3,950m)



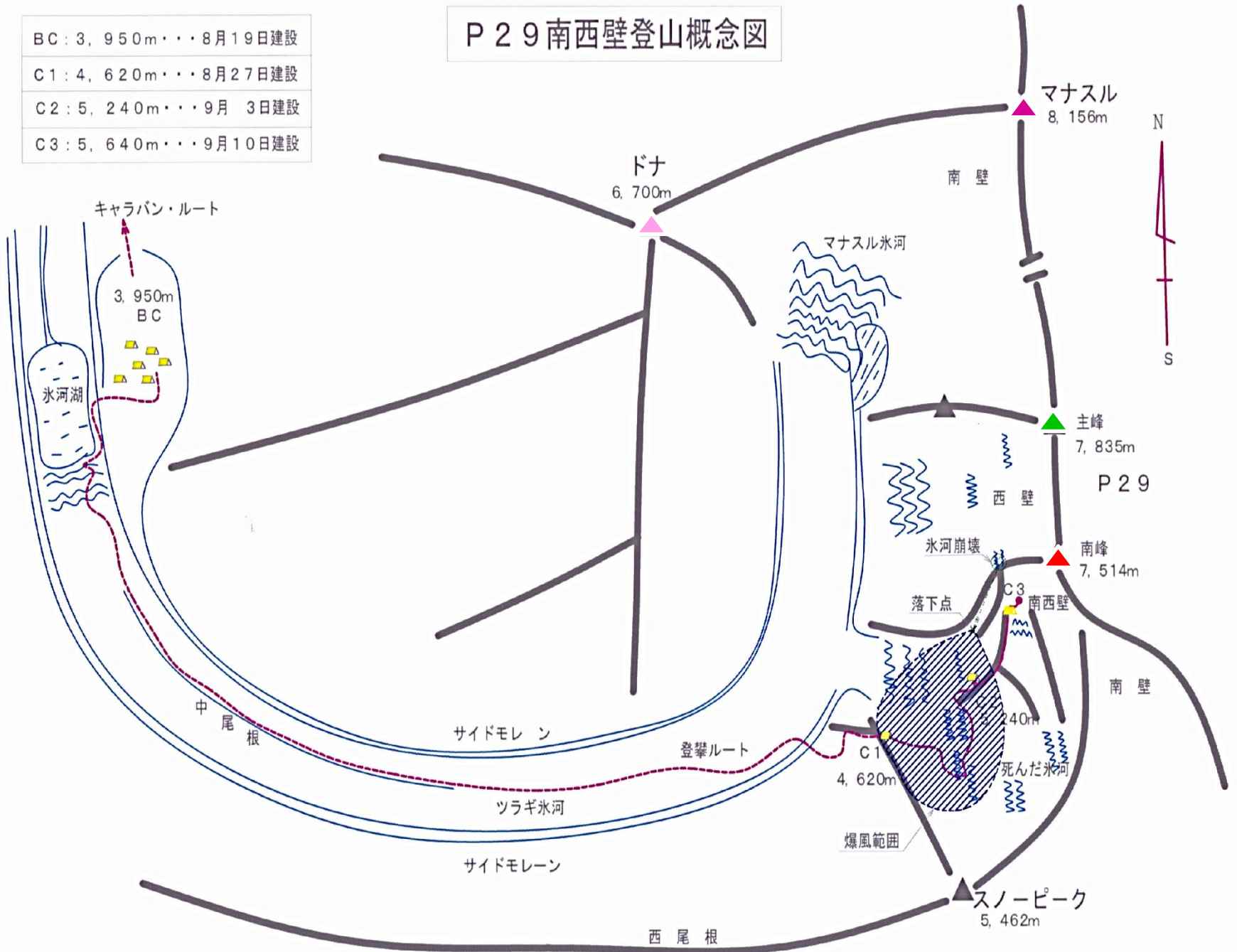
BC : 3, 950m・・・8月19日建設

C1 : 4, 620m・・・8月27日建設

C2 : 5, 240m・・・9月 3日建設

C3 : 5, 640m・・・9月10日建設

P29南西壁登山概念図



モンスーンで霧のベースキャンプ

毎日午後から明け方まで雨が降る



ベースキャンプのキッチン食堂

ニワトリ(卵)、ヤギ(肉) は放し飼い

コック、キッチンボーイ がいつでもお湯が沸している



BCからC1への荷揚げ

一人約20Kg、C1へは約1.5t(75人分)



ツラギ氷河と

P29 西壁、南西壁

C1への荷揚げは、一日往復
16kmのロングコース

↓南峰

西壁

←南西壁

←到達点

ツラギ氷河

2 隊員

氷河の中のモレーン尾根を登る

ツラギ氷河から見上げる P29西壁

▼7,835m 高度差≒3,800m



西壁の懸垂氷河

←南西壁

大規模崩落雪崩

C1

ツラギ氷河

ツラギ氷河から見上げる マナスル南西壁

8,156m ▼ (高度差 ≒ 4,000m)

▼ マナスル

マナスル南西壁

(大音響が響く)

↓ アイスフォール崩壊雪崩



氷河の上に 小川がサラサラ！

(春) 日射がなくなると流れも止まる

(秋) はモレーンの土砂で茶褐色



氷河の末端は氷河湖

水面からの高さ≒50m





南峰 (7,514 m)

崩落氷河

C3

C2

▼高度差 約 2,800m

死んだ氷河とP29南西壁



崩落水河

C3

C2

田中停止

牛沢発見

◆ 南峰 標高差 2,800m
|| 7,514m

P29 南西壁の全景

氷河はクレバスを迂回しながら登る

雪で隠れたクレバス(ヒドンクレバス)に注意



氷河のクレバスと荷揚げ

C2へ荷揚げする隊員





南西壁

クレバスの弱点、弱点を
つないでジグザクに登る

氷河のクレバスを迂回する



C2直下の氷壁を登る

春の横浜隊写真 → 秋のツラギ隊は氷の上に薄雪が被る



C2～C3間、急峻な氷の尾根を登る

▼左側：西壁

▼右側：南西壁



↓南峰



◆南峰～◆C3
高度差≒1,600 m

C3↓

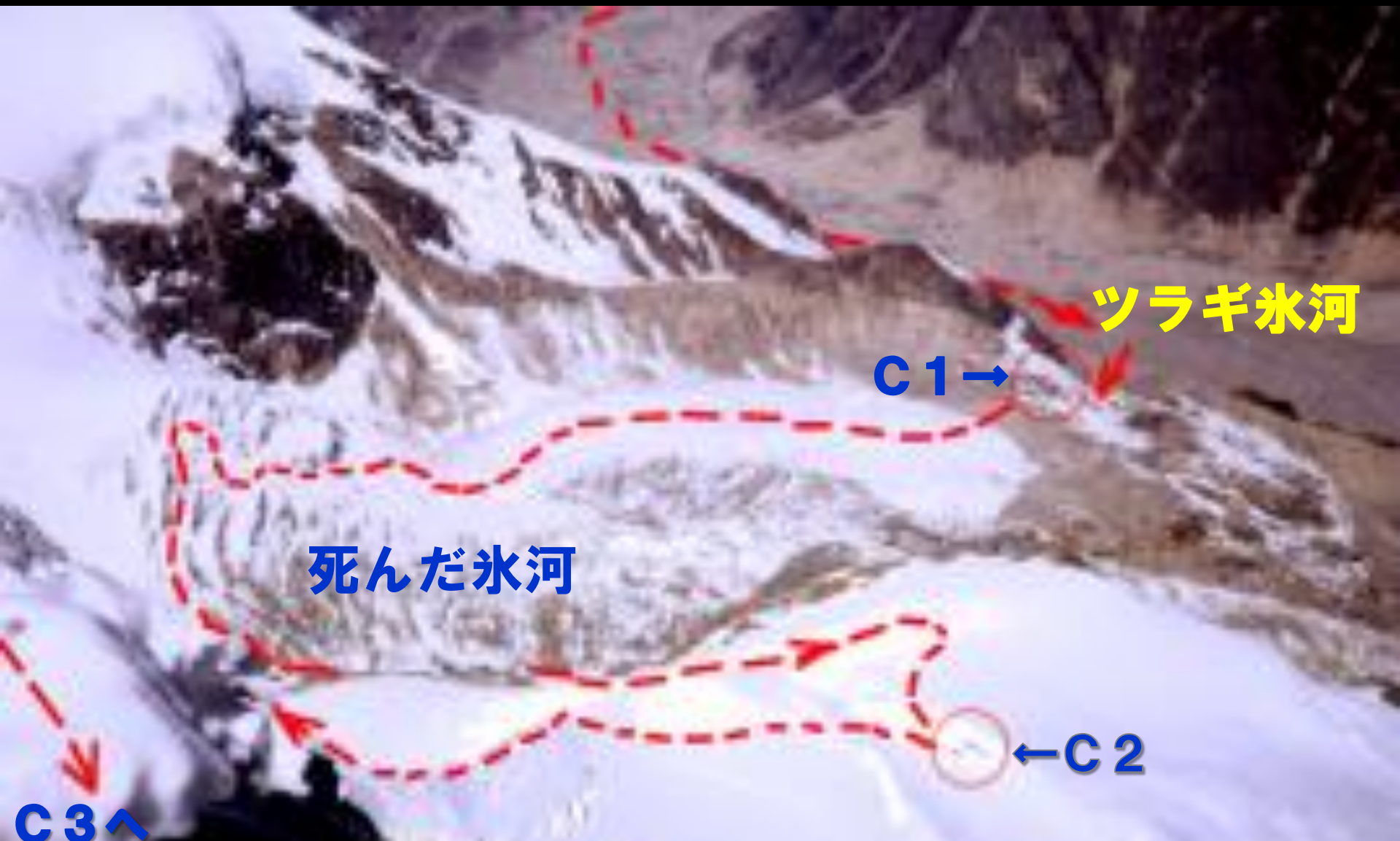


垂直の岩場は ワイヤー梯子 トップはもちろん自力で岩を登る



足元を見下ろすと！氷河

氷河からの高度差≒1,400m



登りながら、右を見ると！

▼ ヒマルチュリ 7,884m



登りながら、左を見ると！

ドナ 6,700m ▼

P29西壁側 ▼



はるか遠くには・・・

▼ 8,000mのアンナプルナ連峰



5,000mの雲海の上は快晴！
アンナプルナ連峰に沈む太陽



高度6,000m氷の尾根を登る2隊員

酸素分圧が1/2となり、呼吸は苦しい



氷の尾根にトップロープをのぼす

隊長として先頭でルートワーク



大岩壁に向かってトツプを登る

初めて印す足跡に気分は高揚！！！！



トップは緊張と高揚が入り混じる！

崩落した西壁氷河の部分 ▼ 高度差 ≒ 1,000m



6,000m 大岩壁直下

▼セカンドを登るサーダー(シェルパ頭)



氷河から 2,000m 登る

傾斜60° 南西壁の始まり ▼



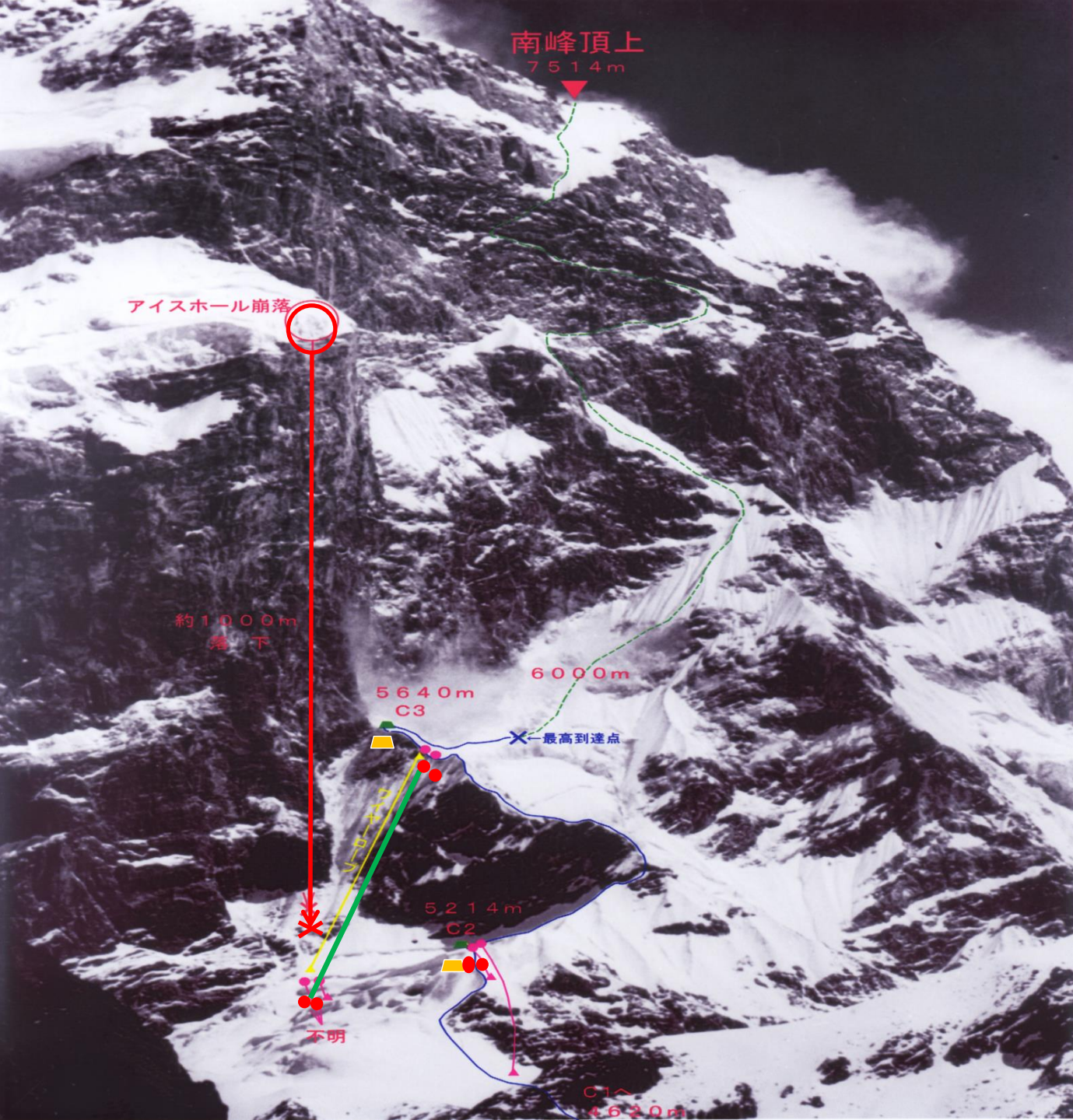
ツラギ氷河

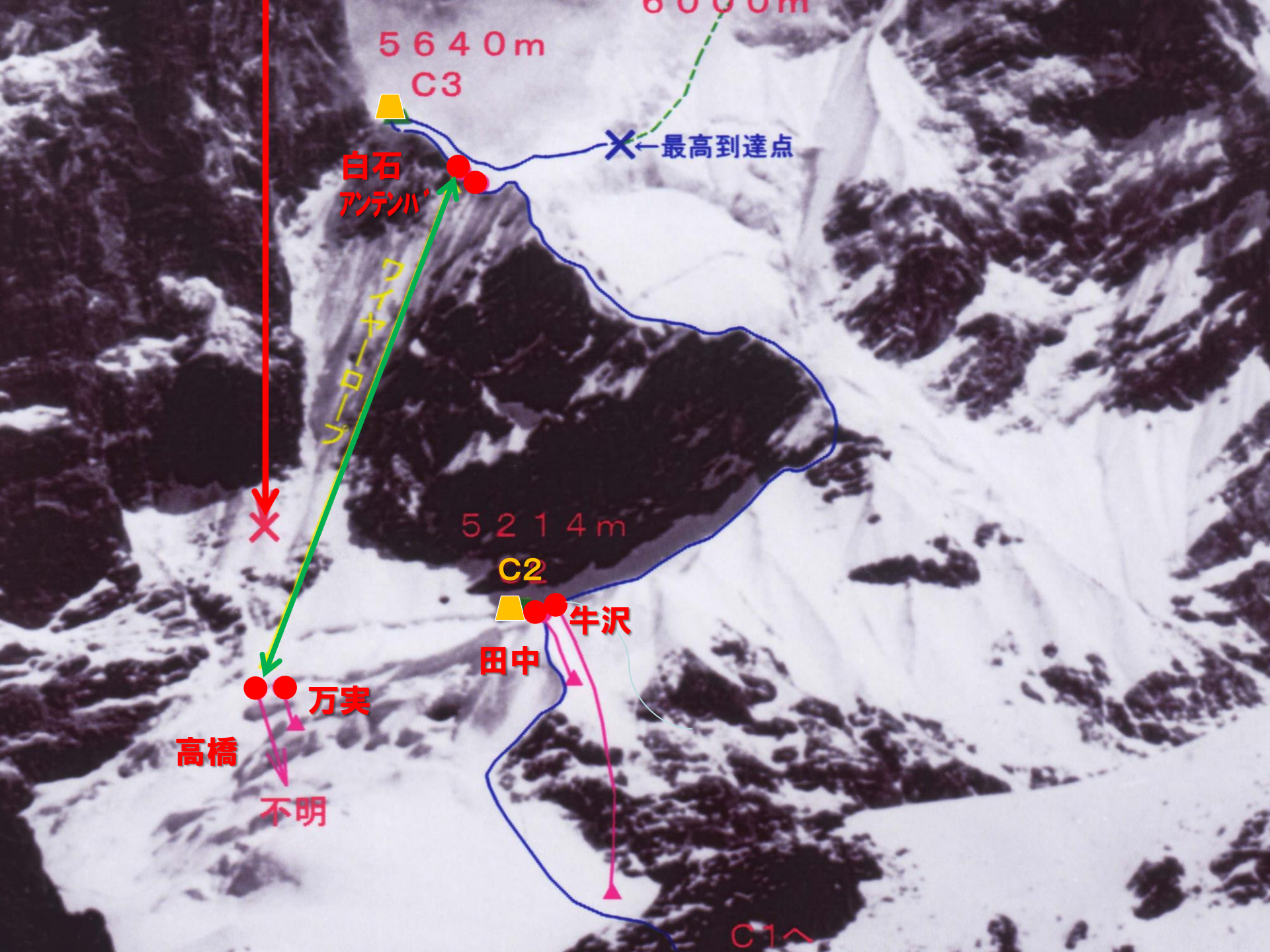
南西壁基部

西壁のアイスホールが崩落

3 隊員が死亡

内一人は現在も行方不明





5640m
C3

6000m

←最高到達点

白石
アンテナ

ワイヤロープ

5214m

C2

牛沢

田中

万実

高橋

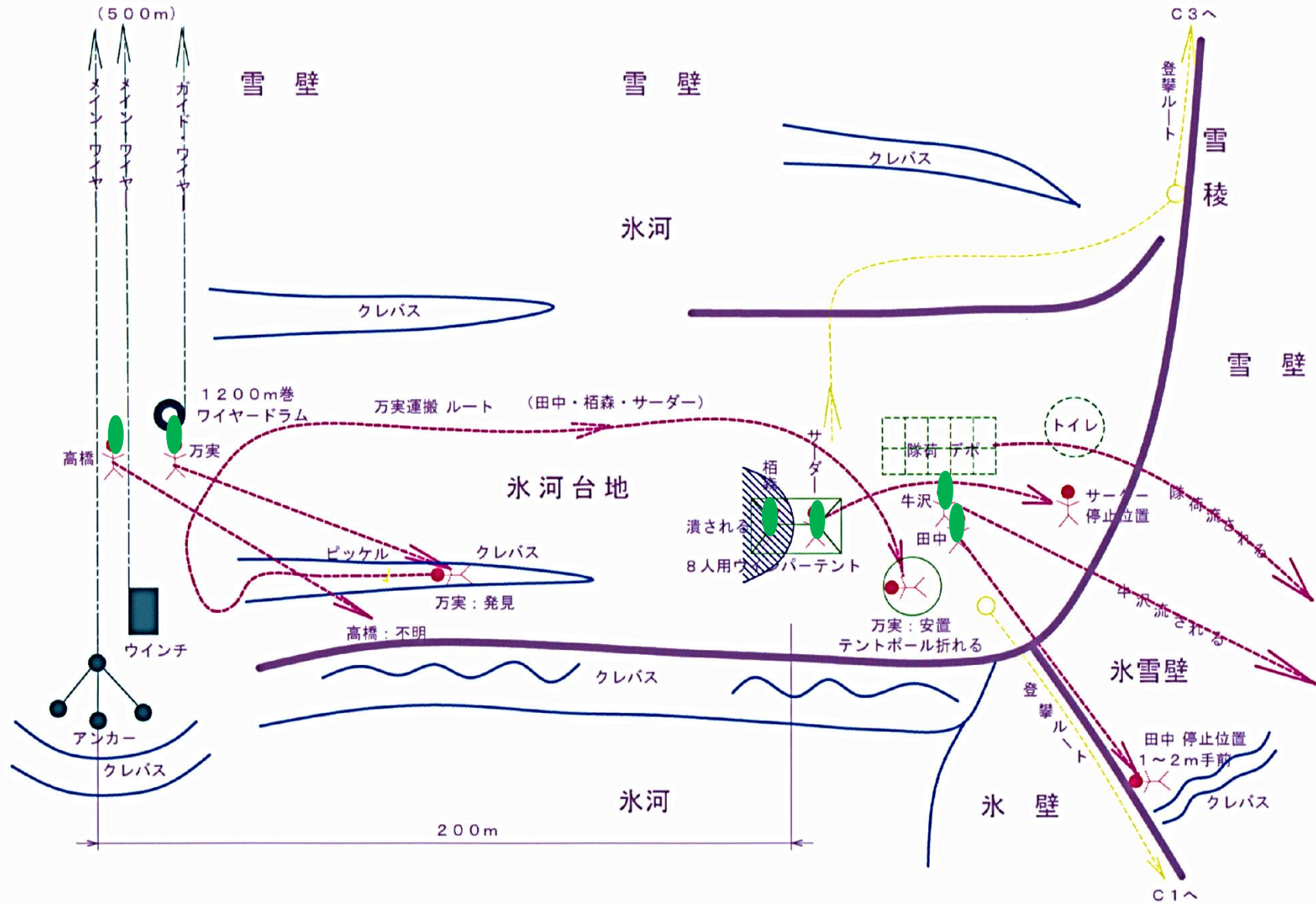
不明

C1へ

1,000m上部から崩壊氷河が落下



C 2 概念図



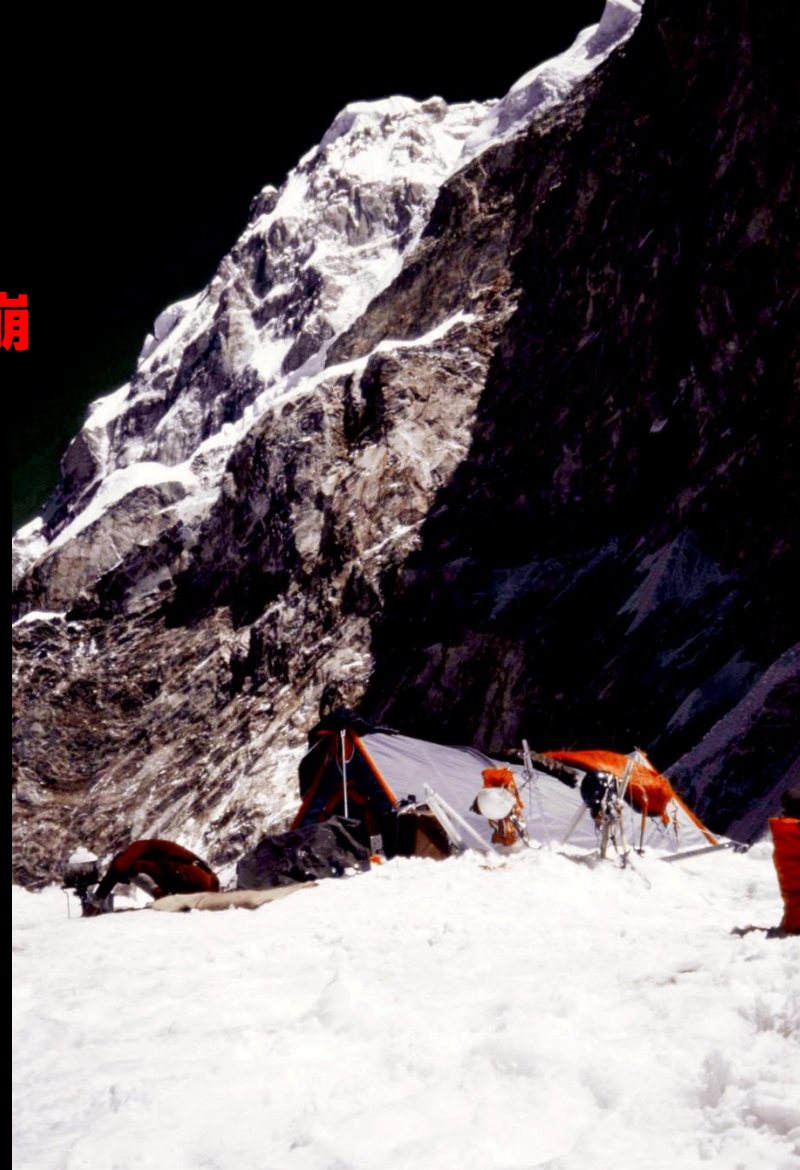
5,240m
氷河台地

横浜山岳協会隊 = C4

1974年 33日間 滞在

ツラギの会隊 = C2

1978年 9日目 (9/14) → 氷河崩落雪崩



高橋隊員の捜索

しかし……

発見できず！

(ポラロイドカメラ写真)



高橋捜索

第2キャンプ下台地に2隊員

(ポラロイドカメラ写真)



石積みの埋葬



2隊員の埋葬地 (C2下の台地)



ベースキャンプに遭難碑

サンテンバ・シェルパ作 <ラマ教徒>



ベースキャンプで追悼



<ヘリ要請電信文はローマ字>



ポーターの病気(腸閉塞)でヘリ要請

↳ 遺族訪ネ情報が重なり

ポーターと隊長カトマンズへ飛行

再度ヘリを飛ばして↳ 遺品を回収

隊長 一時帰国 ↳ 遺品引渡と説明

(ふたたびカトマンズへ戻り、本隊と合流)
個人的登山隊のベストな対応を図る

ツラギの会P29南西壁登山隊
合同追悼会



帰国後の合同追悼会（東京）



ツラギの会P29 合同追



口頭報告と手書き報告書配布

狀況報告資料展示





ツラギの会P29南西壁登山隊

合同追悼会



支援の方々

かつてのヒマラヤ登山は → **総合力**

外交、輸出入、為替、交渉力、判断力、英語力、登攀力

現代は**お金**で解決 → → **経験**が身につかない！

外交交渉

- ・ 外務省(許可申請)、ネパール政府登山規則

輸出入

- ・ 国際船便、インド国内陸送、通関、関税

為替

- ・ 差益、差損 (USDドル、ルピー、バーツ、円)
バンクレート、ブラックマーケット

交渉力

- ・ ネパール政府観光省 (リエゾンオフィサー同行)
- ・ 現地雇用 (シェルパ、ポーター)、現地購入

かつてのヒマラヤ登山は → 外交交渉 交渉は自主努力が不可欠

外務省

- ・日本隊は外務省を通して登山許可を申請・取得する
- ・ネパール政府の登山規則による

日本大使館

- ・ネパール政府と日本外務省との連絡役

ネパール政府観光省

- ・ネパール国内での登山活動に関連する全ての権限

登山隊

- ・全ての報告はネパール政府を通しておこなう
- ・そのため、リエゾン・オフィサーが同行する
- ・報告は全て英語（登山中、英語で夢を見る）

遭難確率の高いヒマラヤ登山に対して

< 緊急時への事前対応 >

外務省・日本大使館

- ・外交手続きと儀礼程度にとどめる（期待しない）

登山隊の自主対策

（事前準備が不可欠）

- ・緊急連絡方法の確立（軸となる手配者を特定）

体制、無線、出動・待機のサイン、ヘリ着陸マークの確認

- ・緊急輸送手段の確保と医療機関の特定

ヘリコプター、人力、（車）

- ・緊急用資金の確保と預託

生命保険加入一人50万円（掛金一人5万円）遭難対策用

ヘリコプター・フライト費用 \$ 3, 000 を預託（ヒマラヤンジャー ニー）

遭難事故後の報告

- **ネパール政府** → **英文報告書提出(写真付)**
- **日本大使館** → **和文報告書提出**
- **ご遺族** → **遠征途中で隊長一時帰国**
遺品の引渡し、状況説明
保険金返却(一人50万円)
命日前後に訪問(10年間)
- **その他関係者** → **帰国直後に合同追悼会**
手書き報告書配布
- 20年後の報告** → **「青春のヒマラヤに学ぶ」出版**

現代ヒマラヤ登山が **高所遠足** といわれるゆえん

- 1) **エージェント**に対価を支払ってマネジメントをゆだね、登山者は**単純行為者**となった
- 2) そのことは、登山者の**人間力形成**へのチャンスを失い、登山のもたらす**総合力**を**低下**させている
- 3) **商業化**（ツアー登山等）は、有名場所に集中し、山岳に**日常性**を持ち込み、山岳の**非日常的体験の場**を失わせ、**人間総合力**を弱めている

では！ どうすればよいか …

… 棲み分けが必要

1) 非日常的山岳環境の確保

非日常環境(冒険・探検)保全区域に、日常環境(日常生活)を持ち込まない(非日常的環境確保)

2) 受益者負担の原則

- ・環境利用料(例＝登山税)
- ・入場料、施設利用料(水・トイレ・宿泊)

3) 環境(山岳)文化の啓蒙

- ・日常生活と非日常生活を意識して切り替える
- ・環境(山岳)文化を普及(意識)させる

自己責任

< 責任には...負える限界がある >

負える責任(限界)

: 相対的限界(復元可能)

・リスク・マネージメント

負えない責任(限界)

: 絶対的限界(復元不可能)

・死・破壊・喪失・etc

・クライシス・マネージメント

冒険・探検する時は責任の限界を意識し、
出来る時、できる事の最善を尽くす ← 出来ない事の方が多い

もし失敗した時
リーダーは

→ 適切な批判には耳を傾ける

・ 不適切な批判は無視する

・ 合理的・論理的に検証し次に生かす

・ 時を得る(心の沈静)

人生はいつも山登り

- 山頂 = その時々**の目標**
- 荷物 = その時々**に背負っている責任**
- 登山 = **自然に逆らって(不条理)** 目標を目指す
だから当然、危険と背中合わせ！…… 逆説の美学

- ◆ **楽しみ**は後からやってくる ← だから最初は**苦しい**
- ◆ **一つの目標**が終わると、**次の目標**が見える
- ◆ **究極の目標** → 実は 「**・ ・ ・ 何もない**」

だれも人生の予知はできず、
苦しくもあり、また楽しくもある

長時間のご静聴
誠にありがとうございました

登山 と **山岳スポーツ** のちがい

日本スカイランニング協会 講演

2016年12月17日

講演=田中文夫

PC操作=児玉熱子